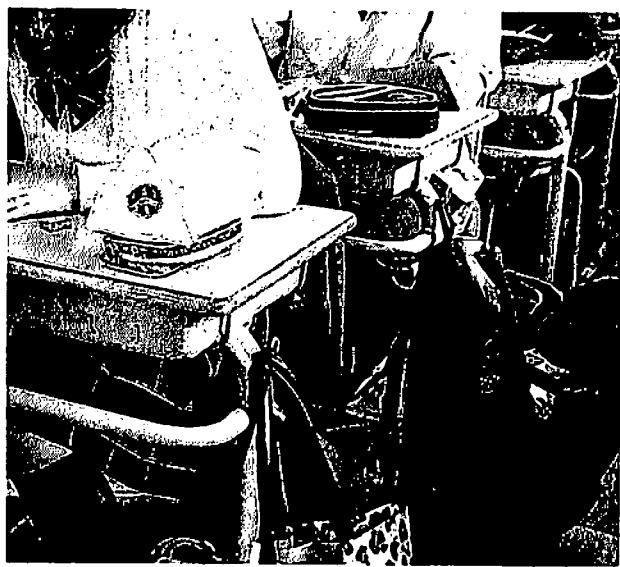
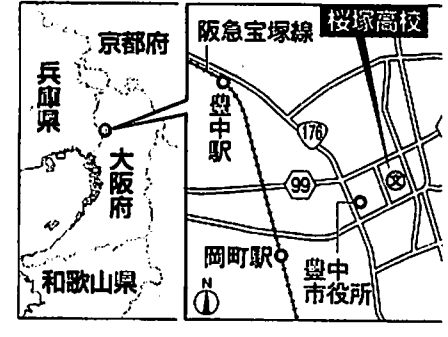




高校

植えられていて、毎年春には学校と同窓会の主催で観賞会を開いて地域に開放している。

世界で活躍できる人材を育てようと、「グローバルスタディコミュニケーション」「グローバルスタディサイエンス」の2コースを設置し、来年度から授業を始める。2年生以上が対象で、志望者が



10分基礎力向上

**まな
びバ!**
教育/2015

トテスト

午前8時19分、1年4組の教室。英語科の内山勝則教師(51)がB5判の用紙1枚を配り始めた。英単語や語句の並び替えの小テスト。20分にチャイムが鳴ると、Eまでこま

間違った問題をしっかりと認識させて正解を覚えてもらうためだ。内山教師は「英語力は単語を覚えないと始まらない。朝学でこのことやるのは効果的だ」と説明する。数学も小テストを出題するが、範囲は本来の50分間の授業と連動させ、基礎的な復習問題が中心だ。国語の問題は古文の単語や漢文の句法、百人一首の書き写しなどだ。連日の小テストは生徒の負担にはなるが、学力向上に手応えを感じている生徒も多い。森日向子さん(1年)は「毎朝大変だが、英語はボキャブラリーが増えてきたし、数学も基礎は押さえられるようになった」。藤井敦也さん(2年)は「1年以上続けてい

(豊中市)



毎年8月になると、有志の生徒10人ほどが東日本大震災で被災した岩手県大槌町などをボランティアで訪れている。2012年にはボランティアがきっかけで県立

被災地高校と「さくら協定」

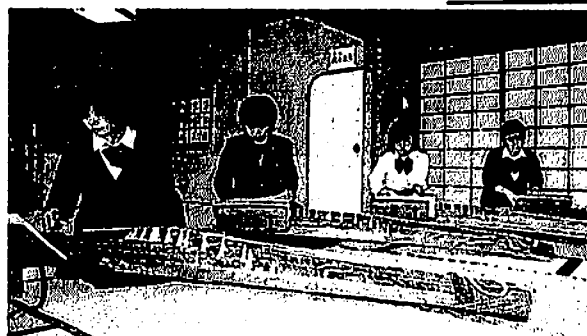


訪問し
するほ
い統一
日間の
とは隣
ない関
の懸け
。10月
では、
前に研
(53)が
田上陽
韓国の
、交流
経験で

琴みやびな音色に癒やされ

CLUB 校舎2階の和室からみやびな音色が聞こえてくる。琴を演奏する箏曲部。部員は4人と少ないが、市役所のロビーや公民館など、積極的に校外に出て演奏会を開いている。

琴は弦が13本あり、楽譜は漢



数字で表記されている。慣れ親しんだ西洋音楽とは全く違うため、入部時はほぼ全員が初心者だ。部活は週3日。うち1日は外部講師の指導を受けていて、半年ほどで何曲か演奏できるように上達するという。

谷穂乃香さん(1年)は「音色がいいので癒やされる」と琴の魅力を語る。部長の津田朝由美さん(2年)は「明るく楽しく活動している。これからずっと琴を続けたい」と話した。



3年生が選択する美術の授業では、段ボールや牛乳パックなどの廃材を使って「とよなか国際交流協会」のマスコット「コモとスースー」の造形作品を制作中だ。28日に豊中市である多文化フェスティバルでリサイクルア

廃材アート地域とつながり

